

第二十九期中間報告会開催

REF 第二十九期中間報告会が二月九日(月)職員会館三〇二号で開催された。今回は「交通分科会」「地象分科会」「緑分科会」の三分科会によるこれまでの活動報告及びREF三〇周年記念事業に向けての方針が報告された。

加藤哲男会長からの挨拶に始まり、荻原貞宏氏の司会のもと、各発表時間十分、質疑三分の時間内でそれぞれの分科会の発表、講評が行なわれた。報告後には、稲葉隆夫氏の総評が行われた。

また、酒井俊雄幹事長よりREF三〇周年記念事業に向けての企画案が報告された。

報告会終了後、別室にて懇親会が開かれ、千谷俊之氏の司会のもと、終始和やかな雰囲気、会員相互の交流が深められた。



第29期中間報告会

【交通分科会】

発表 上村 祥代
講評 酒井 俊雄

「みなとまちの地域資産としての価値」

全国に存在する「みなと」には、潮の香り、歴史的施設や港湾風景といった魅力が多数存在しており、地域住民も生活の多様化に伴い、従来の物流、生産基盤としての役割に加え、地域の人々が集う場、さらには観光の場として注目されるようになってきた。よって、地域の活性化のためには、みなとまちの資源を様々な視点から再評価する必要がある。

そこで交通分科会では、北前船の寄港地三十九箇所を中心に現地調査を行い、過疎地域に焦点をあて、みなとまちに関するキーワード分析を通して地域資産としての価値を探り、検討を行う。

キーワード分析を行うため、インターネット調査を用い、対象となるみなとまちの情報を収集した。また、みなとまちの現地調査については、現在、三国・河野・金石・酒田・敦賀・小浜・秋田・橋立・塩屋・瀬越の報告が行われており、今後の調査報告も楽しみである。



秋田港

【地象分科会】

発表 梅田 祐一
講評 柏 貴子

「地域防災教育に向けて」

阪神淡路大震災から早二十一年が経過した。被災した人々にとっては一生忘れることのできない地震であったと思われるが、被害を受けていない人々にとっては地震であれ、豪雨災害であれ、時間の経過や被災地域の復興などともいつしか忘れ去られていくのが常である。

しかし、大規模災害の発生以降、自主防災組織の重要性が認識され、主に行政主導で組織づくりが進められてきたことは大きな成果である。バブル崩壊後の急激な行財政改革に伴い、防災のためのハード対策が思うように進まないこともあって、ソフト対策として防災意識の向上を図り、常日頃から災害に備える意識を高めていくこととする努力の成果が表れている。このような自主防災のための組織づくりは、崩壊しつつあった地域コミュニティの再構築、結束力の強化にも繋がっていくものと期待される。

地象分科会では第二十八期に緊急地震速報の適用性を検討し、緊急地震速報を有効活用するためには、情報を入力してからのような行動を起こすのかをあらかじめイメージ(準備)しておくことが重要であることを考察した。そして、その有効なツールとして「目黒巻」という方法があることを知った。

そこで、第二九期では、「目黒巻」の有効な使い方を模索し、自主防災組織等の地域防災活動と融合させることで、具体的な地域防災教育に繋げていくための方策を検討する。

【緑分科会】

発表 服部 正秀
講評 橋本 栄治

「小公園再考」身近な公園づくりからまちづくりを考える」

「公園」といっても、その言葉が示している範囲は広く、種類も様々である。身近な公園として、市街地では区域毎に植栽や噴水の設置等により「憩いの場」としたものや、子供の遊具を設備したものがあ
る。また、市町村や広域的な地域においては、全域の住民を利用対象とする「総合公園」や「運動公園」などがあり、他の城跡などの史跡を活用した「歴史公園」や、動物、植物などを自然に近い状態で人に見せるための「運動公園」「植物公園」「森林公園」などや、自然の景観や動植物、地形などを保護するために指定された地域である「国立公園」「国定公園」なども、「公園」とされている

緑分科会では、最も身近な公共空間である小公園（街区公園）に着目し、施設の内容や地域住民と小公園との関わりについて聞き取りなどによる現状把握を行うとともに、環境保全、レクリエーション、防災などの機能面から見た小公園の望ましいあり方や、管理者である「行政」の関わりなどについて検討を行い、まちづくりを考えるうえでの一助となるような身近な小公園づくりに関する提案を目標とする。

【第七十五回 R E F 談話会の開催】

R E F 談話会を以下のとおり開催しますので、積極的な参加をお願いいたします。

- ・日時 : 平成二十一年四月二十二日(水)
午後六時三十分～八時
- ・場所 : 福井県職員会館
- ・テーマ : 英国の都市とアーバンビレッジ
- ・講演者 : 野嶋慎二氏(福井大学大学院教授)

【R E F 三〇周年記念事業の企画案】

平成二十一年に R E F 発足から三〇周年を迎えることを記念して、以下の三事業を企画中である。

一、記念シンポジウム開催(案)

- ・主催 : 福井地域環境研究会
- ・日時 : 平成二十一年十一月中旬 午後二時～七時
- ・場所 : 福井市内(国際交流会館を予定)
- ・テーマ : コンパクトシティの、市町村合併、地方分権、限界集落、公共交通機関の利用等を幹事会で検討中
- ・開催内容 : 講演①・講演②・ほろよい討論会

二、機関誌発行(案)

第三十期の通常活動報告文に加え、以下を掲載。
・三〇周年記念シンポジウム議事録
・二十期～三十期までの R E F 役員、各分科会談話会、研修会の開催経緯記載

三、二〇〇九年 浙江省都市調査団企画(案)

通常の R E F 活動の「研修会を拡大し、過去における福井大学への中国からの留学、R E F 会員との学術交流の実績を踏まえ、留学生 O B の方々等と R E F 会員の交流を図るため都市調査団を派遣する。

【第二十九期 幹事会開催】

第二十九期第三回幹事会が十二月十七日(水)、第四回幹事会が二月二日(月)、福井大学工学部建築建設工学科 2 F 共同ゼミ室にて行われた。第四回幹事会では中間報告会における司会・発表・講評担当者の決定、会場設営準備など具体的な内容について議論を交わした後、二〇〇九年浙江省都市調査団企画案について詳細な説明があった。

今後幹事会においては記念シンポジウム開催に向けて、四月までにテーマ決め、講演者決め、五月に実行委員会を立ち上げる予定である。また、記念機関誌発行のため二十期～三十期までの R E F 役員、各分科会談話会、研修会の開催経緯記載するための整理を行う。